

事務事業名	地域介護予防活動支援事業(サポートリーダーフォローアップ)		所属部局	保健福祉部		単位番号	T437				
			所属課室	介護福祉課		課長名	清水文秀				
			所属担当	高齢者福祉担当		担当者名	齋藤順子				
基本政策	基本計画体系	17	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
					04	介護	4	1	2	2	4
政策		27	社会福祉の充実	事業区分	☒ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金						
施策			地域福祉の充実								
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 H16 年度)		法令根拠	介護保険法第115条の44							
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 サポートリーダーの技術の向上を目指し、研修会等を開催する。 普通救命士の講習会、運動士の派遣等を行いサポートリーダーとしての技術の向上を目指す。			事業費の主な内訳 (22年度)							
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)				
				通信運搬費	72						
						計	72				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	普通救命士の講義を開催。
23年度活動予定	普通救命士の講義を開催するとともに、健康運動士等を講師に招き技術の習得を行う。
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
介護予防サポートリーダー	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
参加率	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
高齢者福祉の向上	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 講習会開催回数	回
I:	
U:	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: サポートリーダー数	人
I:	
U:	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 参加率	%
I:	
U:	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 高齢者福祉の満足度	%
I:	

(2) 事業費・指標の推移

			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円	9	18	35	34	34	34	
		県支出金	千円	5	9	17	17	17	17	
		地方債	千円							
		その他	千円	20	36	69	68	68	68	
		一般財源	千円	5	9	17	19	19	19	
	事業費計 (A)			39	72	138	138	138	138	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	10	10	10	10	10	10	
		人件費計 (B)	千円	45	45	40	40	40	40	0
	(A) + (B)			84	117	178	178	178	178	0
活動指標			A: 回	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
			I:							
			U:							
対象指標			A: 人	132.0	143.0	160.0	160.0	160.0	160.0	
			I:							
			U:							
成果指標			A: %	22.0	21.0	25.0	25.0	25.0	25.0	
			I:							
			U:							
上位成果指標			A: %	20.9	23.2	25.0	25.0	25.0	25.0	
			I:							

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	介護保険法による地域支援事業創設により、介護予防を促進するため開始された。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	介護予防に関する関心が高まっている
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	年に2回くらい開催してほしい

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている 【内容!】 ☐ 取り組みしていない 【理由!】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	テーマや内容に変化をもたせている
H 22年度に実施した改革改善の内容	出来るだけ多くの方が参加できるように開催時期を変えた

事務事業名	地域介護予防活動支援事業(サポーターリーダーフォローアップ)	所属部	保健福祉部	所属課	介護福祉課
-------	--------------------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 介護保険法及び市の高齢者保健福祉計画に基づき行われている重要な施策である	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 サポーターリーダーのフォローアップは高齢者保健計画に位置づけられ市が行うべき事業	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 介護保険法に基づく事業であり妥当である	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある 【理由↓】 ☒ 向上余地がない 【理由↓】 サポーターリーダーのフォローアップは高齢者保健計画に位置づけられ行われている	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 サポーターリーダーのスキルアップが図れない	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 サポーターリーダーのスキルアップが図れない
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 講師も市の関係者を活用し事業費は削減している	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 高齢者保健福祉計画に基づく事業であり削減余地はない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☒ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☐ 公平・公正である 【理由↓】 出来るだけ多くの方が参加できるように開催回数や開催場所を見直す	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	サポーターリーダーとして、その理解と技術を継続するための研修の事業は継続が必要。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性 、 の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☒</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☒	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☒																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td></td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td></td></tr> </table>	成果優先度評価結果		コスト削減優先度評価結果																		
成果優先度評価結果																						
コスト削減優先度評価結果																						